

RCNP 研究会報告

タイトル 「RCNP における核医学プログラム展開の可能性」

開催日 2010年9月29日(水) ～ 10月1日(金)

開催場所 核物理研究センター 4階セミナー室

参加人数 54名

ホームページ <http://utkii.px.tsukuba.ac.jp/~haraguchi/nm/index.php?Top%20page>

世話人 中井浩二、篠原厚、高橋成人(阪大院理)、畑中吉治、高久圭二、土岐博、谷畑勇夫、福田光宏(RCNP)、畑澤順(阪大院医)、榎本秀一(岡山大薬)、内藤裕二(京都府立医大)、松井裕史(筑波大医)、長崎幸夫(筑波大工)、谷森達(京大理)

研究会の内容

本研究会はホームページにも記載されているように、核物理研究の為に整備された加速器が核医学研究の地平を拓く場として今後大いに活用されることを目的として開催された。

すでに、特定元素の生体内での挙動を調べる研究が、AVFサイクロトロンで製造されたRIを用いて始まっており、今後、理学、医学、薬学が連携した研究が加速され、生体内での元素、薬剤の挙動を追跡することにより、癌の発生や免疫機構等の解明が進められると期待している。特に我々は阪大医学研究科附属のPET分子イメージングセンターと協力し、いくつかの新たなPET診断用のRIを開発し、生体内での癌組織へのRI標識した薬剤の集積度合いを調べ始めている。

また、RCNPで製造された種々のRIは阪大内での使用に留まらず、広く関西一円に配布することを目指しており、すでに一部のRIは核医学利用の為に京都大学、金沢大学等へ配布されている。このことを視野に入れて製造方法等の開発も行っている。

以下にこの研究会での講演及び議論された主題を列記する。

1. 加速器科学と医学・生物学：歴史と新しい展開
2. RCNP核医学研究の環境
3. RCNP核医学研究の基礎
4. 癌医療研究の基礎、薬剤の体内挙動
5. 加速器源中性子の利用
6. 総括討論「RCNPとPETセンター」

これらの主題に即した講演では活発な質問・議論がなされ、理学・医学・薬学の連携の必要性が認識された。今後、さらなる研究の発展が期待される。

そのほかに昼休みを利用してAVFサイクロトロンのS実験室に設置されているRI製造装置や、講演終了後には医学研究科附属PET分子イメージングセンターの見学会も行った。